

第1学年 生活科学習指導案

い組 男子18名 女子17名 計35名
指導者 小 菌 博 臣

1 単 元 みんなで あそぼう

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、学校探検の活動を通して、学校の様子がおおよそわかり、落ち着いた学校生活を送ることができるようになってきている。また、一日遠足や休み時間等の中で、友達とかかわり合うことを通して、『もっとみんなと仲良くなりたい』『思いっきり体を動かして友達と遊びたい』という思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、友達とかかわりをさらに深めるために、校内の散歩や砂遊び、公園遊び等の活動に、子どもたちを主体的・能動的に取り組ませる中で、仲良く遊びたいという思いや願いを達成していく楽しさを味わわせながら、活動への意欲を高めようとするものである。同時に、これまでの経験を基に、諸感覚を使って試行錯誤しながら遊び、自分と友達の遊び方を工夫したり、気付いたことを表現したりする力を培おうとするものである。また、校内や公園での遊び方に気付き、道具や公共施設の適切な使い方、後始末の仕方等の習慣・技能を身に付けることができるようにするものである。さらには、これらの活動を通して、自分のよさや成長に気付かせることもねらっている。

なお、これらの活動は、『もっと生き物と仲良くなりたい』という願いとして、夏休み後の「生きものとなかよし」の活動へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

遊びは、自分でルールを考えたり、楽しくなるように工夫したりして、自分らしさを発揮できるものである。また、思考と行動が未分化なこの時期の子どもたちにとって、身体全体を使って活動できる遊びは、諸感覚を使うことができ、自ら考え、判断し、行動する基盤となる力を培うことにつながる有効な方法であり、内容でもある。砂や土は、自分で思ったものを表現したり、すぐに作り直したりできる可塑性をもち、この期の子どもが没頭でき、その子なりの試行錯誤が生まれる素材である。公園は、遊び場としての遊具やそこを利用する人々や施設、草花等、子どもを取り巻く環境の縮図であり、その中で遊びに没頭することにより多くの学びが生まれる場所である。さらに、これらのものは、子どもにとって身近なものであり、興味をもちやすく、同じ活動を行う友達とかかわり合いが生まれやすいものでもある。したがって、このような砂や土、公園で遊ぶ活動は、自分なりに新たな遊びを見出したり、友達と遊ぶ楽しさを十分に味わったりできるものである。

このような身近なものを対象にした遊びに主体的に取り組み、活動で得た気付きを広げたり深めたりしながら、自分なりに活動を見出すことができるようにするために、自分と友達の遊びを比べたり、気付いたことを自分なりに表現したりする活動を重点化していきたい。

具体的には、まず、「さんぽにでかけよう」の活動で、学校探検で見つけた遊具や施設、草花、人々を確認しながら校内を散歩し、春の自然の様子に気付かせていきたい。また、散歩をする中で、砂場の近くを散歩して、『砂場で思いっきり遊んでみたい』という意欲を高めていきたい。次に、散歩の活動で高まった遊びへの思いを基に「すなばであそぼう」の活動へと展開し、砂や土での遊びを設定していきたい。ここでは、図画工作科の「ようこそすなのくにへ」と合科的に扱い、砂や土のよさを十分に味わわせていきたい。そして、活動の中で得た気付きを生かしながら、自分なりに楽しい遊びを見出すことができるように、自分が作った物と友達が作った物を比べたり、作った物を見立てたりする遊びを取り入れてきたい。雨が降った際には、砂遊びにとらわれず、雨の日の遊び方について話し合い、実際に遊ぶことを通して、工夫をすれば、雨の日でも友達と楽しく遊ぶことができることに気付かせていきたい。そして、活動場所を学校から地域へと広げ、「こうえんであそ

ぼう」の活動へと発展する。公園遊びでは、これまでの経験を生かしながら、遊具での遊び方、遊具や施設はみんなのものであることに気付かせたい。さらに、繰り返し公園に出かける中で、これまでの活動を生かしながら、新たな遊びを生み出すことができるようにしていきたい。最後に、夏休み前に「もうすぐなつやすみ」の活動を設定し、夏休みの自分の生活について話し合わせ、めあてをもった生活ができるようにするとともに、家庭や地域の生活への意欲を高めるようにしたい。

なお、活動の展開においては、一人ひとりの実態に応じた支援をし、お互いのよさに触れ合う場を設定したり、学習したことを生かせるような教師の働きかけを行ったりしながら、活動が連続・発展するようにしたい。

このような活動を通して、子どもたちは活動に没頭し、活動に対する成就感や満足感を味わうと共に、自分のよさや成長を実感し、自分への自信と自分の生活をこれまで以上によりよくしていこうとする意欲を高めることができるようになる。

(3) 子どもの実態 (対象者 い組 35名, 数値は延べ人数)

<p><砂遊びの経験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある…35名 ・ない…0名 <p><砂で作った物> (複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山…24名 ・トンネル…21名 ・お団子…20名 ・川…18名 ・ケーキ…4名 ・お城や家…2名 ・落とし穴…1名 ・無回答…0名 <p><砂遊びで気を付けること> (複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片付け…14名 ・砂をかけない…8名 ・ゆずりあい…6名 ・道具を投げない…2名 ・暴力しない…2名 ・無回答…4名 <p><公園で遊んだ経験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある…35名 ・ない…0名 <p><公園で気を付けること> (複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の横断…6名 ・危険な場所に行かない…7名 ・一人で行かない…5名 ・順序よく並ぶ…5名 ・意地悪しない…4名 ・その他…4名 ・無回答…4名 <p><好きな室内遊び> (複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折り紙…17名 ・お絵かき…9名 ・おにごっこ…7名 ・お勉強ごっこ…2名 ・無回答…5名 <p><室内遊びで気を付けること> (複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走らない…26名 ・周りをよく見る…4名 ・話をよく聞く…1名 ・無回答…4名 	<p>全ての子どもが、幼稚園や保育園等で、砂場遊びの経験があるが、山やトンネル、川等、単体の物であることが多い。そこで、個々が作った物を、互いに比べ合ったり、様々な物に見立てたり活動を取り入れ、互いの作った物をつなげたり、合わせたりすることで、気付きを広げたり深めたりしていく必要がある。また、気を付けたいこととして、多くの子どもが片付け方や遊び方、道具の使い方について考えることができている。そこで、このような子どもの考えを広げたり、片付けの際に音楽を流したりしながら、具体的な指導を行う必要がある。</p> <p>公園遊びについては、全ての子どもが公園遊びを経験している。このことから、過去の経験を振り返らせながら、公共物の使い方について考えさせていきたい。また、室内遊びについても、これまでの経験を生かしながら、どのようにしたら楽しく遊ぶことができるか話し合っていきたい。</p>
--	---

また、活動中は、教師も子どもの遊びの中に積極的に入り、タイミングを見て、具体的に指導していくようにする。なお、学校生活が始まって間のない子どもたちであり、些細なことでトラブルが起こることが予想される。教師は、けんかも成長するための学びの過程だと捉えて、双方の考えを十分聞いて共感した上で、次からどのように行動したり、発言したりしたらよいか考えられるように励ますようにする。

(4) 指導上の留意点

ア 「さんぽにでかけよう」の活動では、自然の様子や様々な遊びに気付くことができるように、全員で学校内の様子を見て回るようにしたい。その中で、気付きを基に考えることができるようにするために、見つけた自然の様子を「触ったら、何に似ているかな」「何みたいに見えるかな」と問いかけ、気付いたことを、子どもなりの表現でたとえるようにする。また、砂場の近くを通ったときには、砂場遊びの時間を設定し、砂場遊びへの意欲を高めるようにしていきたい。

イ 「すなばであそぼう」の活動では、子どもが活動にじっくりと取り組み、諸感覚を使って、試行錯誤して活動するために、図画工作科「ようこそすなのくにへ」の学習と合科的に扱い、たっぷり砂や土にかかわり、素材のよさに気付くことができるようにする。そして、砂や土への気

付きやそれまでの砂遊びの経験を生かして、気付きを広げたり深めたりすることができるように、自分と友達の商品をつなげて遊んだり、様々な物に見立てて遊んだりする活動を取り入れていきたい。なお、雨が降った際には、室内での遊びにおいては、教師が身近なものを使ったおもちゃ遊びから始めさせ、もっと自分たちでできる楽しい遊びはないかと問いかけることで気付きが広がったり、深まったりするようにしていきたい。

ウ 「こうえんであそぼう」の活動では、友達とのかかわり合いを深め、公園の利用の仕方を気付くようにするために、繰り返し公園に出向き、これまでの気付きを生かしながら、遊びを展開したい。1・2回目の活動では、公園までの歩き方や横断歩道の渡り方等交通ルールを指導したり、友達と楽しく遊ぶことができるようになるためのルールに気付かせたりしていきたい。そして、3回目の活動では、これまでの公園遊びを通して、身に付けたことを生かして遊ぶことができるように、1・2回目の活動を振り返り、楽しかったことやもう一度やってみたいことについて話し合い、自分なりの思いや願いをもって活動に取り組むことができるようにしていきたい。

エ 「もうすぐなつやすみ」の活動では、めあてをもって夏休みの生活が送れるようにするために、これまでの学習で分かったことやできるようになったことを振り返らせ、夏休みも継続してできることはないかを見付けることができるようにしたい。

3 目 標

- (1) 『もっと、みんなと仲良くなりたい』『思い切り体を動かして友達と遊びたい』という思いや願いを基に、校内での散歩、砂や土遊び、公園遊び等に進んで取り組むことができる。
- (2) これまでの遊びの経験や友達との情報交換を基に、試行錯誤しながら学校内の遊びや公園での遊びを工夫したり、友達とかかわり合ったりしながら、自分なりの遊びを見出すことができる。また、自分が思ったことや感じたことを絵や言葉等で表現することができる。
- (3) 自然の様子や土や砂を使った遊び方、公園の利用の仕方等に気付くとともに、後始末や安全な歩行等の習慣・技能を身に付けることができる。また、友達と仲良くかかわることができた自分のよさや成長に気付くことができる。

4 指導計画 (全 18 時間)

活動する 楽しさ	活 動 名 (意識の高まりと気付きの横相)	主 な 学 習 活 動 (時 間)	学習形態・環境構成 教師の具体的な働きかけ
○自然の中にある面白いものを見付けることができる楽しさ	・学校には、もっと面白いものはないかな。散歩に行ってみよう。	校内を散歩して、自然の中にある面白いものを見付けて遊ぶ。(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の面白さを感じることができるようにするために、学習林や草地等での時間を確保する。 ・ 探検の際、砂場遊びへの意欲を高めるために、砂場での活動の時間を設定する。 ・ 砂や土の素材のよさに気付かせるために、図画工作科「ようこそすなのくにへ」の学習と合科的に扱い、十分に砂や土に触れる時間を確保する。 ・ 気付きを広げたり深めたりするために、自分と友達の砂の作品を比べたり、砂を使った見立て遊びを取り入れたりする。 ・ 公園の利用の仕方に気付かせるために自分が遊んで困ったことや自分たちの他にどんな人が遊びに来ていたかを想起し利用の仕方を話し合わせるようにする。 ・ 夏休みに向けて、めあてをもって意欲的に生活することができるようにするために、学習を通してできるようになったことや、気付いたことを発表し合い、互いに認め合う場を設定する。
○遊具や施設を使った遊びを見付けることができる楽しさ	さんぽにでかけよう (3時間)	自分が見付けたことや気付いたことをカードにかいて発表する。(1)	
○身体いっぱい使っている楽しさ	・身体いっぱい使って遊びたいな。	自分の経験を生かしながら、思い思いに砂や土を使って遊ぶ。(2)	
○身体いっぱい使っている楽しさ	すなばであそぼう (6時間)	友達と協力して、みんなで作りたいたいものを作り上げる。 <本時>(1/2)	
○友達と一緒に力を合わせて作ることができる楽しさ	・砂や土って面白いね。 ・みんなで協力すると、もっと楽しく遊ぶことができるね。	室内でみんなと遊ぶ。(2)	
○公園で思いっきり遊び、利用の仕方が分かる楽しさ	こうえんであそぼう (8時間)	自宅近くの公園との違いを見付けたら、自由に遊んだりする。(2)	
○考えを表現する楽しさ	・もうすぐ夏休みだぞ。 ・どんなことをしようかな。	公園に行き、自分たちでルールを決めて友達と楽しく遊ぶ。(5)	
○考えを表現する楽しさ	もうすぐなつやすみ (1時間)	公園の秘密を見付けたら、楽しかったことを絵カードにかいて発表したりする。(1)	
○考えを表現する楽しさ	もうすぐなつやすみ (1時間)	夏休みの生活について話し合う。(1)	

本 時 (6 / 18)

(1) 目 標

- ア 『砂や土で思いっきり遊びたい』『みんなで仲良く遊びたい』という思いや願いを基に、進んで砂や土を使った遊びに取り組むことができる。
- イ 諸感覚を使って、試行錯誤しながら砂や土を使った遊びをする中で、これまでの気付きや経験を生かしながら、自分なりに工夫して作ったり遊んだりすることができる。また、友達と協力して活動するよさに気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

自分が作った砂や土の作品を生かして、さらに自分なりに活動を発展させることができるように、これまで作った作品を様々な物に見立てる活動を取り入れるようにする。また、活動中は、子どもの活動を見取り、その行為や考え方を意味付けたり価値付けたりして、主体的に活動できるように支援していきたい。

(3) 準 備

材料 (砂や土、水等)、道具 (スコップ、バケツ、一輪車、空き容器等)、ラジカセ 等

(4) 展 開

学習過程	主 な 学 習 活 動	時間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
意欲をもつ	本時が始まる前までに、子どもたちは自分の力で身支度を整えて砂場の周りに集まるようにする。	(分)	
	1 前時までの活動を振り返り、本時の学習について話し合う。 ・前の時間に、みんな様々なものを作ったね。 ・みんなで作ったものを合わせてみると、どんな砂の作品できるかな。 たのしい「〇〇のまち」をつくろう。	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習意欲を高めるために、写真を見せたり、これまでの活動の様子を振り返らせたりして、前時までに気付いた砂や土のよさについて紹介し合う。 ○ 本時の活動への見通しをもたせるために、前時までに作った作品の写真を見せて、町にあるどんなものに見えるか問いかけ、その考え方のよさを価値付けたり、全体に広げたりする。
活動する	2 これまで作ったものが、どのように生かせそうか話し合う。 ・お団子が、町にある木に見えてきたよ。 ・食器で作った形は、建物みたいだね。 ・山は、大きなお城に見えるね。	30	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの気付きを生かして取り組むことできるように、比べる活動として友達の作ったものをつなげること、たとえば活動として見立て遊びを取り入れる。 ○ 個への対応 <ul style="list-style-type: none"> (1) 進んでつなげたり見立てたりして遊んでいる子ども その子どものがんばりや工夫を意味付けたり価値付けたりするとともに、そのよさを周囲にも広げるようにする。 (2) 活動に戸惑っている子ども 戸惑っている原因を探るとともに、友達とかかわらせたり、教師と共に活動させたりしながら自分で遊べるようにする。 (3) 友達とのかかわりが少ない子ども 作っているものが何に見えるか問いかけ、町のどこに生かせそうか考えたり、同じ物を作っている子どもを紹介したりする。
	3 自分なりに工夫しながら砂や土で遊ぶ。 前時までの活動 お団子 山 川 トンネル ケーキ 穴 つなげて遊ぶ 見立てて遊ぶ 気付きの広がりや深まり ・僕の川と、〇〇君の川をつなげたよ。とても長い川ができたぞ。 ・山と川をつなげて、山の下に流れる川を作ったよ。 ・お団子をたくさん並べると、大きなボールみたいで、かわいい町になるね。 ・川が、ぐにやぐにや流れていて、蛇みたいだね。 ・山にお団子をくっつけたら、おもしろい建物に見えてきたよ。お城みたいだね。 ・ケーキをたくさん並べたら、町にある車に見えてきたよ。だから、道も作ったよ。		
振り返る	4 道具の後始末をする。	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりの考え方のよさを広げるために、活動中に生まれた疑問や問題は、全体で話し合っていくようにする。 ○ 活動の終わりに気付き、進んで後始末に取り組むことができるように、音楽をかける。 ○ 友達と協力して取り組んだことの成就感を味わわせるために、遊びの中でできたことや楽しかったこと等を発表させ、意味付けたり価値付けたりする。
	5 遊んでできたことや楽しかったことを伝え合う。 ・みんなで力を合わせて、楽しい町ができたよ。 ・次は、もっとすごい町を作りたいな。		